

# きんだいせいようい がくきょういく 近代西洋医学教育の父 ポンペ

## 1 ポンペ 長崎にやってくる

今から160年ほど前、江戸時代の終わりごろのことです。当時は、今のように医学が進んでおらず、人々は、病気になっても十分な治療ちりょうを受けることができませんでした。また、コレラや天然痘てんねんとうなどの恐ろしい伝染病でんせんびょうがはやり、それで亡くなる人もたくさんいました。



ポンペ (長崎大学附属図書館所蔵)

1857年、28歳のオランダ海軍軍医かいぐんぐんいポンペは、ヤパン号かんりんまる (後の咸臨丸) という船に乗って、はるばるオランダからやってきました。ポンペは、日本人に西洋の進んだ医学を教える役目やくめを担っていました。ポンペには、「日本の人々に西洋の進んだ病気の治療の仕方を教えて、日本の医学を発展はってんさせたい」「出島に住むオランダ人だけでなく、たくさんなおの日本人の病気を治したい」という強い願いがありました。

## 2 日本人に西洋医学を教える

幕府ばくふは、西洋の進んだ医学をとり入れるために、長崎に開いた「海軍かいぐん

でんしゅうじょ こうぎ  
伝習所」で、ポンペに医学の講義をしてもらうこ  
とにしました。また、まつもとりょうじゅん い し  
松本良順という医師を長崎  
に送り、学ばせることにしました。

ぶぎょうしょ いっしつ  
さっそくポンペは、奉行所の一室に良順と学  
生12名を集めました。オランダの進んだ医学  
を日本人に教えることは、かんたん  
簡単にできることではあ  
りませんでした。

たが  
まず、お互いの言葉が通じないということ。日

本人にはポンペが話すオランダ語の意味が分かりません。つうやく  
通訳にとっても、ポン  
ペが話すお医者さんの専門的な言葉を日本語に訳すことは簡単ではありませ  
んでした。また、ポンペ自身も学生が話す日本語の意味がほとんど分かりませ

ん。そこで、ポンペは、学生にできるかぎりオランダ語を勉強するよう勧め、自分

おぼ どりよく  
も日本語を覚える努力をしました。さら  
にポンペは、学生が自分の言うことを  
りかい  
理解できるよう、できるだけ簡単な内  
容から時間をかけて分かりやすく伝え  
るようになりました。



ポンペ 良順と学生たち  
(長崎大学附属図書館所蔵)

ポンペから医学を学びたいという人たちが日本中から集まりました。学生は、



松本良順

(長崎大学附属図書館所蔵)

つうやく

夜遅くまで勉強<sup>はげ</sup>に励み、よく分かるまで何度も質問しました。ポンペは学生に医学をしっかりと身に付けてもらうために、物理学や化学など、医学を支える基礎となる学問から、順序立てて分かりやすく教えるようにしました。ポンペが学生に教える内容はたくさんあり、その全てを一人で教えることは、とても大変でした。しかし、ポンペは決して弱音を吐くことなく、誠実に学生と向き合い、熱心に指導しました。

### 3 日本人の病気を治す<sup>なお</sup>

当時、オランダ人のポンペは、自由に出島の外に出て日本人を診察することは許されていませんでした。ポンペは病に苦しむ日本人を自分が直接診察し、救いたいという気持ちを持っていましたので、「自由に日本人を診察させてほしい」と何度も奉行所にお願ひしました。ポンペの強い気持ちに、奉行所はどう、日本人が立ち会うことを条件に診察を許しました。ポンペの診察には、医学校で学ぶ学生が立ち会うこととなりました。学生はポンペの治療の仕方を目の前で見て、多くのことを学びました。

ポンペは、かねてから「医師にとって、病人に貧富・上下の差別はなく、ただそこに病人があるだけだ」という考えをもっていましたので、身分や位<sup>くらい</sup>の上下を問わず、誰でも無料で診察を受けられるようにしました。

また、ポンペは、天然痘てんねんとうやコレラおそなどの恐ろしい伝染病でんせんびょうから人々を救すくうことに  
も力を尽くしました。天然痘をなくすために、外国からワクチンを取り寄せ、多くの  
子供達よぼうせつしゅに予防接種しゅとう(種痘)を行ないました。

1858年の夏、長崎だいいりゅうこうにコレラが大流行しました。ポンペは、昼夜ちゅうや問わず  
一生懸命治療いっしょうけんめいにあたり、多くの人々を救いました。

#### 4 医学校と病院をつくる

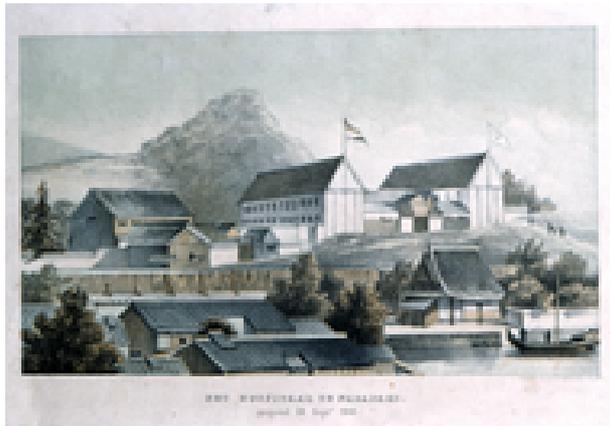
学生に医学などを教え、病気で苦しむ人々を救うポンペのうわさは、長崎だ  
けでなく、日本中に広まっていきました。ポンペは、日本に来た時から、長崎に  
オランダにあるような診察施設しんさつしせつの整った病院や学生に医学を教える学校(医  
学校)をつくる必要ぶぎょうしょであると考えていました。そこでこのことを奉行所ぶぎょうしょに強く  
お願いし、幕府ばくふにも手紙を送りました。また、オランダ商館長しょうかんちやうドンケル・クルチウ  
スもポンペに協力し、江戸せつびに行つて、この国に設備せつびの整った病院をつくるよう、  
幕府に強くお願いしました。なかなか幕府からの許しはもらえませんでした。ポ  
ンペらが一生懸命幕府や奉行所に働きかけたこと、コレラが全国的にはやり、  
多くの人々が苦しんでいることなどから、ようやく幕府は重い腰こしを上げ、ポンペの  
望む病院と医学校をつくることを許しました。

さっそく、トローイエンというオランダ人がポンペの話のぞを聞いて病院を設計しま

した。建<sup>た</sup>てる場所は、小島郷<sup>こじまごうあざ</sup>字

佐古<sup>さこ</sup>の畑<sup>はたち</sup>地(現在の仁田佐古小  
学校の場所)が選ばれました。ここ

は、長崎市<sup>はな</sup>の中心部からあまり離  
れていないので、人が集まったり、



養生所 (長崎大学附属図書館所蔵)

物を運んだりしやすい場所でした。また、日当たりやながめがよく、心地<sup>こち</sup>よい丘の  
上だったのです。

幕府の許しがあつてから約1年後の1861

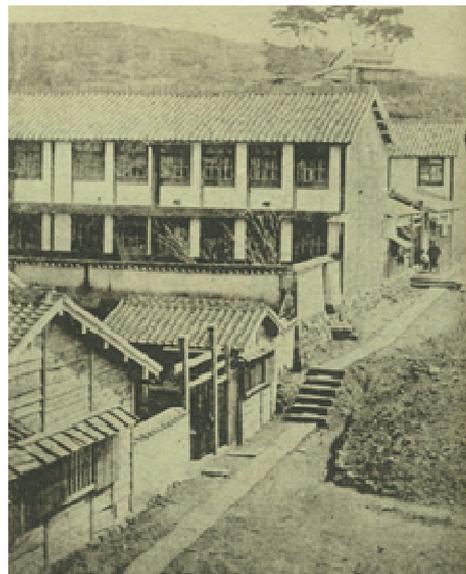
年8月、病室<sup>しゆじゆつ</sup>、手術室、リハビリテーション室、  
薬局<sup>やつきよく</sup>、図書室<sup>だ</sup>などがある2階建ての病院、

「養生所<sup>ようじょうじよ</sup>」ができました。また、その隣<sup>となり</sup>には教室

と寄宿舍<sup>きしゆくしゃ</sup>が整った「医学校<sup>いがく</sup>」もできました。

設備<sup>せつび</sup>の整ったすばらしい病院と医学校の完成

に、当時の長崎の人々はとても喜びました。



養生所 (長崎大学附属図書館所蔵)

養生所<sup>おおぜい</sup>ができると、毎日、大勢の人々が来ました。ポンペは、朝8時には養

生所<sup>ちりよう</sup>に行き、まず入院している人の治療<sup>ちりよう</sup>を行いました。学生たちは、ポンペに付

き<sup>そ</sup>添い、たくさん<sup>す</sup>のことを学びました。各病室での治療が済むと、次は、外から訪

れた人たちの診察<sup>しんさつ</sup>をしました。ポンペは、身分<sup>みぶん</sup>や貧富<sup>ひんぷ</sup>の差に関係なく、病人は

だれ びょうどう しんさつ  
誰でも平等に診察しました。

養生所での仕事が終わると、次は医学校の先生として、学生に勉強を教えました。ポンペは学生に、人々の命を守る医者の仕事の責任の重さを、<sup>きび</sup>厳しく指導しました。学生に、言い続けていたのは次のようなことです。

「医師というものは自分がいかなる仕事に<sup>じゅうじ</sup>従事しているかを<sup>しょうち</sup>承知していなければならぬ。いったん医師となったからには、わが身はもはや自分の体ではなく、<sup>なや</sup>悩める人間のものである。」

1857年	9月	ポンペ来日
	11月	ポンペ、海軍伝習の一環として奉行所内で西洋医学の講義を開始する。
1858年	6月	長崎にコレラが大流行する。死者767人。ポンペ、医学伝習生の協力を得て、治療に尽力する。
		※コレラは九州各地に広がり、大阪・京都を経て、7月以降江戸に流行、10月に及ぶ。江戸の死者3万人あまり。 ※ポンペはこの年、幕府に対し病院設立を願い出る。また、「種痘書」を出版。
1859年	2月	幕府、長崎の海軍伝習所を閉鎖するが、ポンペの医学伝習は引き続き行うこととする。
		※この年、幕府はポンペの申し出を受け入れ、病院設立を許可する。
1861年	8月	養生所・医学校完成
1862年	10月	オランダ陸軍軍医ボードウイン、養生所・医学校2代目教師として着任し、ポンペの医学教育を引き継ぐ。
	11月	ポンペ、オランダに帰国する。

(「市制100年長崎年表」より)

ポンペは養生所及び医学校での診療と学生への教育を1862年まで続け、5年間にわたる長崎での医学教育を終えて<sup>きこく</sup>帰国しました。ポンペの後は、同じ

オランダ人のボードウィンが引き継ぎました。ボードウィンは「物理化学」を学生たちに詳しく教えるために、新たに物理化学研究所(分析窮理所)をつくりました。ここでは、日本で初めて本格的な科学教育が行われました。

養生所と医学校は1865年に精得館と名前が変わり、明治になってからは長崎府医学校となって、現在の長崎大学医学部に発展しました。

ポンペが日本にいた5年間で診療を受けた日本人は14530人、教えた学生は150名を越すといわれます。ポンペから学んだ学生の多くは明治以後、日本の各地で西洋医学の指導者となり、日本の医学を発展させました。

今、医師になりたい学生は、附属病院のあるいろいろな大学の医学部で、基礎になる学問から順序立ててしっかり学んでいます。このような仕組みを日本で最初につくったのがポンペなのです。ポンペが長崎で行ったことは、現在でも大学を中心とした医学教育の中に受け継がれているのです。

文 片岡 勝志 (長崎市立仁田佐古小学校 令和2年3月)

協力 長崎大学

#### 参考文献

- 「ポンペ 日本滞在見聞記～日本における5年間～」 雄松堂書店
- 「長崎医学百年史」 長崎大学医学部
- 「出島の医学(相川忠臣)」 長崎文芸社
- 「ポンペ(宮永孝)」 筑摩書房
- 「江戸時代 人づくり風土記 42 長崎」農山漁村文化協会
- 「日本近代医学の父ポンペと幕末のオランダ人たち(桑原敏真)」文芸社